

児童一人一人のより良い生き方を求める力を 育てるための構想と支援の在り方

- 音楽で拓く総合的な学習の時間 -

寺 田 純 子

(茨城県利根町立太子堂小学校)

The Comprehensive Learning Created by Music Education

TERADA JUNKO

(Taishido Elementary School, Ibaraki-prefecture)

要 旨

市音楽祭への取り組みを総合的な学習の時間「龍の子タイム」の始まりとし、フォーラム等の活動を通して、三世代交流音楽会へと発展させた。これらの活動の中で、生きて働く体験や能力を身につけさせる工夫をした。

児童とともに考える総合的な学習、児童が主体的自律的に活動できるための取り組み、三世代交流音楽会への取り組み、龍の子タイムのまとめの活動

1. 音楽で拓く総合的な学習の時間を支える 基礎的な表現能力を育てるための工夫

自然で無理のない声の良さの体得

創造的な学習を展開する基礎づくり

合唱劇「音楽のおくりもの」をつくって

表現する活動を通して、総合的な学習の時間
に生きて働く力の土台を育てる工夫

ア オリジナルの台本づくり

イ 学年T・Tでのパート練習

ウ 打楽器のコース選択学習

エ 全体で合唱劇を練り上げる活動

児童の音楽的視野を広げる工夫

ア 和太鼓音楽集会

イ PTAコーラスクラブのお母さんと歌う

音楽集会

大舞台「市小中学校音楽祭」での発表を
楽しむための工夫

ア 家族への招待状づくり

イ 聞き手の心に届く表現の支援

2. 総合的な学習の時間「龍の子タイム」 への発展を通して、生きて働く体験や能力 を身につけさせる工夫

やる気を引き出す学年フォーラム

ア 第1回学年フォーラム「音楽祭をふり
かえて」

感動的な市音楽祭後、フォーラムを開き、
音楽祭で学んだことや感想を話し合ったり、
保護者の感想を聞いたり音楽劇のビデオ鑑賞
をしたりした。多くの保護者から「聴いてい
て目頭が熱くなった。」などといった感想が
寄せられ、「おうちの人にあんなに喜んで
もらえるとは！」という児童の感想が聞かれ
た。みんなで気持ちを一つに物事をやり遂げ
る喜びを味わい、多くの人に大きな感動を与
えることができたことは児童にとって大きな

自信となった。この感動と自信をこれからの生活に生かせるよう意欲づけをした。

イ 関連領域としての自作資料の道徳

みんなで力を合わせる取り組みを身近な高齢者や家族に向けてほしいという意図で主題名「感謝する心」の資料「ぼくのおばあちゃん」を作った。資料の内容は、「運動会を目前に、たかしは病気で入院した祖母を見舞う。面倒だと思っていたが、あまりの容体の悪さにショックを受けてしまい元気だった頃の祖母がしてくれた様々なことを思い出し祖母の愛情に気づく。そして今度は自分が祖母のためになりたいと考え運動会当日、敬老席の接待係として生き生きと働きながら、病院の祖母に思いを馳せる。」というものである。

日頃、愛情や物を与えられる一方の児童であるが、話し合いの中で「おばあちゃんはぼくのためにいろんなことをしてくれている。」

「もっとおばあちゃんを大切にしよう。」

「自分もできることをしたい。」などの意見が出た。この授業を通して、祖父母の愛情に気づき、与えられるだけではなく、何かをしたいという意欲をもつことができた。

ウ 第2回学年フォーラム「おじいちゃんおばあちゃんに自分たちができることを考えよう」

道徳の時間に「感謝する心」を勉強した後、「音楽祭で、みんなで力を合わせてあんなにすごいことができたのだから、もっと何かやってみよう。」と投げかけ、第2回フォーラムを計画した。大勢の実行委員とパネラーが立候補し、教師とともに計画を立てていった。パネラーは事前のアンケートで、「祖父母に何かをしてあげた経験をもつ」児童の中から選出した。当日司会などをする実行委員の児童だけではなく、パネラーにも計画から参加させ、フォーラムの意図や流れが理解できるようにした。また、介護などの経験を持つ保護者2人にもパネラーとしての参加を依頼した。

フォーラム当日は、大勢の保護者にも参加

していただきかったので、2学期末のPTA授業参観日を選んだ。広い体育館で司会団とパネラー、フロアの児童と保護者が対面で話し合える場を設定した。

はじめに事前のアンケートから、「おじいちゃんおばあちゃんのすきなところベスト3」などを司会の児童が紹介した。1位から「おこづかいやほしい物を買ってくれるところ」

「やさしいところ」「いろいろなことを教えてくれるところ」という結果であり、改めて祖父母にたくさんの愛情や物を与えられていることが分かる。司会の児童が「ぼくたちの方は、おじいちゃんおばあちゃんに対して、ありがとうの気持ちを表しているでしょうか。」と全体に投げかけパネラーの発表に移っていった。6人のパネラーは、「市場で大評判のおいしいにんじんづくりをするおじいちゃんはすごい。おじいちゃんが入院したときは、お母さんと妹と3人で毎日手伝いに行った。」

「遠くてすぐに行けないおばあちゃんに手紙を書いたり電話をかけたりにしている。」「家族のことが分からなくなったおばあちゃんの手をぎゅっとにぎって、分からなくてもいいから学校のことなんかを話してあげている。」「しゃべれなくなってしまったおじいちゃんに50音の表を作って、字を指差しながらお話しした。」などといった体験を発表した。また、2人のパネラーのお母さん方も、介護で感じたことなどを話していただいた。その中で特に多くの参加者の心に響いたのは、「家族の協力する気持ちが、介護をする私を支えた。」「大切なのは家族が互いを思いやる愛情。」という言葉だった。

その後、話し合いの中で、フロアの児童からも数多くの体験を発表してもらい、保護者からも貴重な介護の体験や、「自分にできることをしてあげられる子になってほしい。」という願いを語っていただいた。

最後に「3年生108人みんなでできること」を考える場面では、多くの児童から「音楽で

おくりものをしたい。」という意見が出されたので、「今日からでも自分ができることはどんどんやろう。そして、みんなで力を合わせて祖父母にすてきな音楽でおくりものをしよう。」とまとめた。

どの児童もとても熱心に話し合いに参加した。特に、フロアの児童は、友達やお母さん方の体験談に真摯に耳を傾けて、自分にもできることがあると気づくことができた。保護者にも、席には立ち見ができるほど参加していただき、中には祖父母の姿も見られた。発言して下さった保護者の中には体験談の途中で感極まって泣いてしまう方もおり、「思いやり」の重みを参加者全員で感じ取ることができる心にしみたフォーラムとなった。

三世代交流音楽会への取り組み

ア 龍の子タイム実行委員

多くの希望者で結成した実行委員が話し合った結果、「祖父母だけでなく、父母も招待したい。」ということになり、三世代交流音楽会「みんなで歌うさわやかコンサート」を開くことになった。

イ 児童の手づくりの音楽会

実行委員の児童が、どんな音楽会をしたら祖父母や父母に喜んでもらえるかアンケートを取った結果、「昔の歌」「昔話」「合奏」などが多かったので、発表内容を「人形劇」「器楽合奏」「ミュージカル」の3つに分けた。児童は、どれか1つを選び、発表の内容を検討した。

人形劇グループは、「つるのおんがえし」を選び、歌とリコーダー、効果音を組み合わせた音楽劇を計画している。

器楽合奏グループは、人気があり人数が多いので、たくさんの楽器を登場させられる「音のカーニバル」に決定した。

また「ザ・ロンゲストデーマーチ」「風を切って」で合奏することにした。特に「風を切って」は、冒険家・植村直己さんをイメージした曲なので、道徳の資料と映画を使い、

表現方法を話し合った。

音楽会では、吹雪に立ち向かう植村さんをスライドで上映しメッセージを入れて演奏することにした。

ミュージカルグループは郷土民話「女化のきつね」に決定した。本校の道徳自作資料を台本に直し、自分が受け持つセリフは児童が考えることにした。歌は地元の市民合唱団が合唱劇「女化物語」のために創作した民謡をアレンジした。

ウ 音楽会の一人一役割の分担

三世代交流音楽会は、計画も準備も児童が役割を分担する大がかりな活動だ。司会や会場・ステージづくり、お茶の接待などを分担した。

エ 三世代交流音楽会

当日は、2部構成のプログラムとした。オープニングには、龍の子タイムのテーマ曲である「音楽のおくりもの」を合奏し、開会宣言をする。まず、第1部では、選択グループの人形劇、器楽合奏、ミュージカルを発表する。休憩では、祖父母や父母にお茶を接待し、第2部に入る。まず、合唱劇「音楽のおくりもの」を再演し、本校PTAコーラスクラブのお母さん方に「花」(滝廉太郎作曲)、「ふるさと」を歌っていただいた。これらは、祖父母に「一緒に歌いたい歌」のアンケートを取ったところ上位に挙げられた曲である。そして「ふるさと」を会場全体で合唱し、力強い一体感を味わうことができた。その後、ハンドベルの「エーデルワイス」に乗せて、児童がメッセージを読み、手話をつけて「あの青い空のように」を児童全員で歌った。最後に祖父母や父母にインタビューして感想を話していただき、児童によるお礼の言葉と合唱「歌よありがとう」でしめくくった。

招待者は「音楽のおくりもの」の合奏の中、児童の花道を通して退場し、出口で手づくりのカードのプレゼントを児童から手渡され、大変に喜んでいただいた。

当日は1月という寒い中でありながら、200人以上の祖父母や父母が集まってくださり、

大勢のお客さまを前に児童も大張り切りであり、大盛況であった。



三世代交流音楽会 みんなで考え作り上げたステージ

龍の子タイムのまとめの活動

総合的な活動「龍の子タイム」のまとめとして、第3回学年フォーラムを行った。三世代交流音楽会后、児童に龍の子タイムの活動から学んだことについてアンケートを取ったところ、「協力すること」「自分の役割を責任をもって果たすこと」「自分でできることを相手にしてあげること」「家族を大切にすること」などがあげられたので、大きく3つのグループに分けることにした。児童は自分の感想に一番近そうなグループを選び、同じ価値を持つ仲間と話し合うことで、自分が学んだことの素晴らしさを深めさせていった。

当日のフォーラムでは、最初に、龍の子タイムで体験した内容の全てを、ビデオで短時間で振り返り、各学級1人ずつに感想文を発表してもらった。次に、3つのグループに分かれて、龍の子タイムを通して学んだことを話し合う。話し合いの場は、教室と学習コーナーを3ヵ所用意しておき、そこへ児童と担当の教師が移動し、T・Tの形式で話し合いをする。その後、再び全体で集まり、各グルー



「龍の子タイム」のまとめの活動

プの代表がパネラーとなって発表したり、フロアの児童と意見の交換をしたりすることで、児童は多様な考え方に気づき、龍の子タイムの価値を話し合いを通して広げていった。最後に、10月から5ヵ月間をかけて、3年生全員で取り組んできた龍の子タイム「音楽のおくりもの」で得た感動や自信を土台にして、一層心豊かな生き方を求める4年生になっていけるよう励まし、フォーラムを終えた。

3. 実践の成果

児童は学年の枠を取り払った「龍の子タイム」での活動を通して、自分の学級以外の友だちとかかわり、友だちの良さに気づき、それらを自分に生かそうとするようになった。児童は自分たちの活動に自信をももち、学年全体が生き生きとしてきた。

三世代交流音楽会では、合唱劇や様々な音楽集会で体験したことや身につけた能力が、児童一人一人の中で生きて働く力となり、実行委員の児童が中心となって、自ら考え行動する姿が見られた。

また、様々な場面で保護者にも参加していただくことで、児童はますます意欲的に取り組んでいた。保護者からの協力も多く得られ、学校と家庭が連携する取り組みは児童のやる気を引き出すと確信した。

なお、この報告は、前任校(龍ヶ崎市立龍ヶ崎小学校第3学年)で実践したものである。